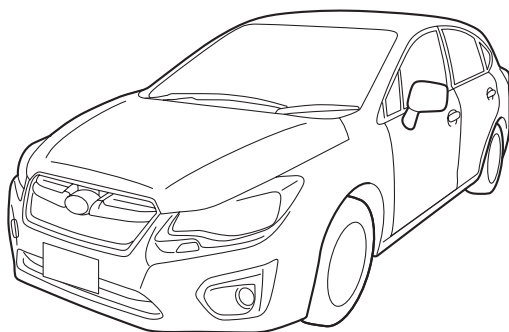
このたびは「インプレッサ」を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は「EyeSight（アイサイト）ver.2」の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

> 本書では「EyeSight (ver.2)」は全て「EyeSight」と表記しております。
> EyeSightは運転者への事故被害や運転負荷を軽減するためのシステムです。
> 運転するときは常に周囲の状況に注意しながら、安全運転を心がけてください。

- 交通ルール・マナーを守り運転しましょう。
- 「EyeSight（アイサイト）」以外の取り扱いについては、別冊の「インプレッサ取扱説明書」を併せてお読みください。
- スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

IMPREZA GJ2-002001～004299,GJ3-002001～004599,
GJ6-002001～004099,GJ7-002001～009099,
GP2-002001～011299,GP3-002001～007299,GP6-002001～007799,GP7-002001～020299

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや車体が損傷する可能性があることを回避法とともに示しています。

	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。

⚠ 注 意	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。

その他の表示

	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと

EyeSight（アイサイト）

IMPREZA GJ2-002001～004299,GJ3-002001～004599,
GJ6-002001～004099,GJ7-002001～009099,
GP2-002001～011299,GP3-002001～007299,GP6-002001～007799,GP7-002001～020299

EyeSightについて

EyeSight（アイサイト）

EyeSightはさまざまな機能によって、運転者の判断を助け、安全・快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。EyeSightは、スバル独自のステレオカメラを用いています。２台のCCDカメラを用いたステレオ画像処理により、先行車や障害物、車線などを認識します。

⚠ 警 告

運転者には通常の安全運転の義務があります。運転時は常に先行車との車間距離や、周囲の状況、運転環境に注意して必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。

EyeSightだけに頼った運転は、絶対に行わないでください。

EyeSightは、運転者の判断を補助し、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキを踏むなどの適切な操作をしてください。

わき見運転やぼんやり運転など運転者の前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。

また、あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。

EyeSightの認識性能・制御性能には限界があります。全車速追従機能付クルーズコントロール、プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御、定速クルーズコントロールの警告を必ず参照の上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

右ハンドル車のEyeSightは、左側通行を想定して設計しています。右側通行の道路で使用する場合は性能が充分に発揮できません。

- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。プリクラッシュブレーキ機能を OFF にしてください。また、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

☆42ページ参照

- タイヤの空気圧が適正でないとき※
- 応急用スペアタイヤを装着しているとき※
- 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※
- 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※
- サスペンションを改造したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- ヘッドランプが汚れていたり光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき
- 重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 定員を超えているとき

※ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
詳細は「インプレッサ取扱説明書」を参照ください。

- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
  - トレーラーや車両などをけん引しているとき

アドバイス

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方の車両や障害物、車線を認識しづらくなります。
- 以下の状況では先行車、二輪車、歩行者、路上の障害物、車線を認識しづらくなり、EyeSight が一時停止状態になる場合があります。この場合状況が改善され、しばらく走行すれば再び機能は動作します。
  - 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など。特にフロントガラスに油膜が付着したり、ガラスコーティング剤を使用したり、古いワイパーをお使いになった時に、一時停止しやすくなります）
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプのハイビーム光など）を受けたとき
  - フロントガラスに曇り、雪、汚れ、霜、土埃が付着し、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき
  - 先行車や対向車両の水や雪などの巻き上げや水蒸気、砂、煙、土埃が舞い、視界が充分でないとき
  - トンネルの出入り口を通過するとき
  - 前方車両の最後面が小さい（例えばトレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
  - 対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁などのとき
  - 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが充分に拭き取れていないとき
  - 夜間またはトンネル内で、先行車のテールランプが点灯していないとき
  - 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどを通過するとき
  - 急な上り坂、急な下り坂の場合
  - カメラの前を手でふさぐなどした場合
  - 真っ暗で周囲に物がない場合
  - 周囲が一面雪で、物がない場合
  - ステレオカメラのレンズ部に指紋などの汚れが付着した場合
  - インストルメントパネル上に物を置いた場合（フロントガラスへの映り込みにより安定した認識ができず一時停止となる場合があります）
  - ステレオカメラに衝撃などが加わり、ずれや歪みが生じた場合

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 以下の状況では、EyeSight が一時停止状態になる場合があります。この場合、状況が改善されれば再び機能は動作します。
  - 炎天下で放置した後など車内の温度が高いとき、または極寒の環境で放置した後など車内の温度が低いとき
  - エンジンの始動直後
- EyeSight は、プリクラッシュ 2 次ブレーキが作動したときに下記のデータを記録・蓄積します。会話などの音声は記録しません。
  - ステレオカメラの画像情報
  - 先行車との車間距離
  - 車速
  - ハンドルの操舵角
  - 進行方向に対しての横方向の動き
  - アクセルペダルの操作状況
  - ブレーキペダルの操作状況
  - セレクトレバーの位置
  - ABS、VDCおよびTCSの制御に関する情報

  スバルおよびスバルが委託した第三者は、記録されたデータを、車の研究開発目的に取得・流用することがあります。なお、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
  - ・お車の所有者の同意がある場合
  - ・裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
  - ・統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

ステレオカメラの取り扱いについて

ステレオカメラは天井の前席用スポットマップランプ部分に装着されています。

⚠ 注 意

- ステレオカメラ前面の汚れを自動で判定する機能を備えておりますが、万全ではありません。
  状況によっては、ステレオカメラ前面の汚れを判定できない場合があります。また、フロントガラスのステレオカメラ付近に雪や氷などが付着したときも、判定できない場合があります。このような状況では、車間距離が適切に保てない場合がありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用せず、常に前方に注意して走行してください。
  また、フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。なお、汚れを判定した場合は、定速クルーズコントロールを除く全てのEyeSightの機能が作動しません。
- ステレオカメラのレンズ部は精密部品です。取り扱いについては、下記の注意事項を守ってください。
  - ステレオカメラのレンズ部には絶対に触れないでください。また、レンズ部は清掃しないでください。
    万一、レンズ部に触ってしまった場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。
  - フロントガラスを清掃するとき、ステレオカメラのレンズ部にガラスクリーナーなどが付着しないように注意してください。
- ステレオカメラに強い衝撃や力を加えないでください。
- ステレオカメラを取り外したり、分解しないでください。
- ステレオカメラの取り付け位置を変更したり、周辺構造物の改造をしないでください。
- フロントガラス（外側、内側）は常にきれいな状態に保ってください。
- フロントガラス（外側、内側）にステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けないでください。
- フロントガラスにガラスコーティング剤などを使用しないでください。システムが正常に作動しない場合があります。
- スバル純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）を装着しないでください。ステレオカメラの視野に影響し、機能が正常に動作しない可能性があります。
- スバル純正品以外のワイパーブレードを装着しないでください。ステレオカメラの視野に影響し、機能が正常に動作しない可能性があります。
- ワイパーブレードは早めに交換してください。（拭き残しにより、障害物を認識しにくくなる場合があります）
- インストルメントパネル上に物を置かないでください。フロントガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが正常に作動しない場合があります。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- フロントガラスを交換・修理する場合は、スバル販売店にご相談ください。

EyeSightの機能について

EyeSightには、次の7つの機能があります。

■全車速追従機能付クルーズコントロール

クルーズコントロールをセットしてセット車速を保ちながら走行し、同一車線内に先行車がいる場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。
☆14ページ参照

■プリクラッシュブレーキ

前方の車両や障害物に衝突する可能性があるとき、車間距離警報により、運転者の回避操作を促します。それでも運転者の回避操作がない場合、衝突の直前に自動的に急ブレーキをかけ衝突被害を軽減または、衝突を回避します。
☆35ページ参照

■AT誤発進抑制制御

ギヤの入れ間違いやペダルの踏み間違いによる誤った前進を抑制します。
☆43ページ参照

■車線逸脱警報

走行中、車線を逸脱しそうになると、注意を促します。
☆47ページ参照

■ふらつき警報

疲れやよそ見、ぼんやり運転、横風などによるふらつきを認識し、注意を促します。
☆50ページ参照

■先行車発進お知らせ

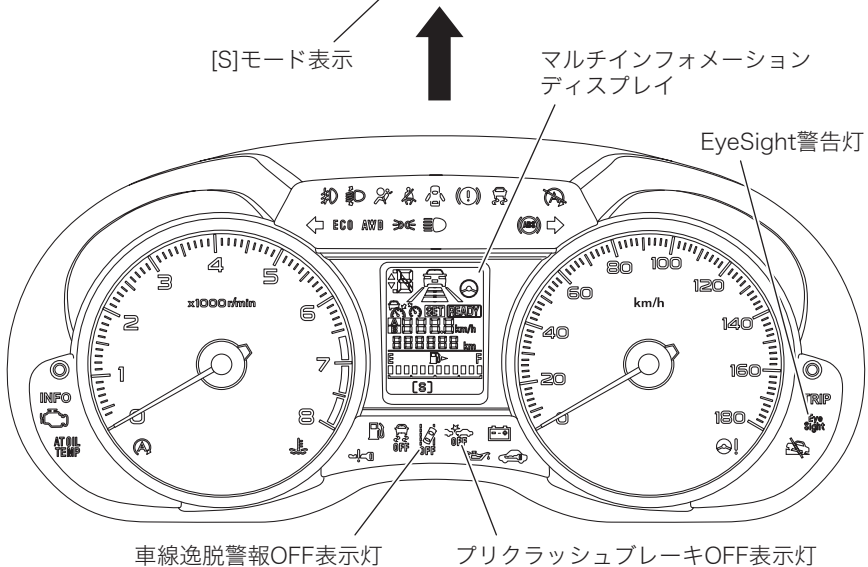
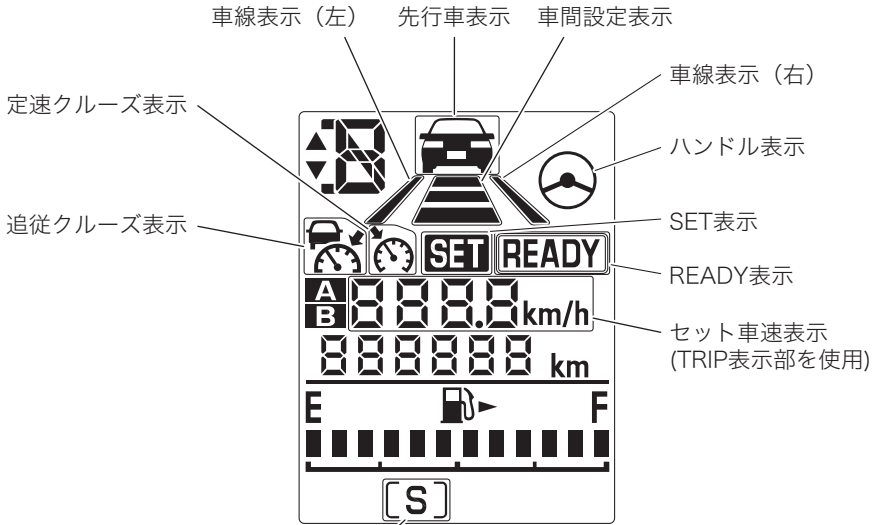
先行車が発進しても自車が発進しない場合にお知らせします。
☆53ページ参照

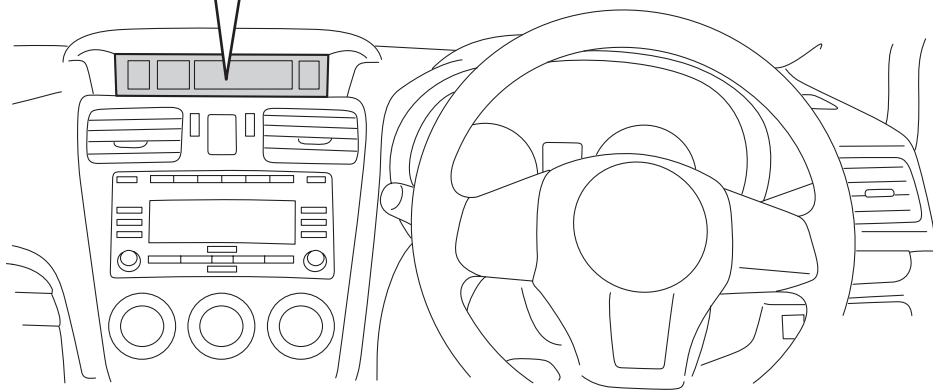
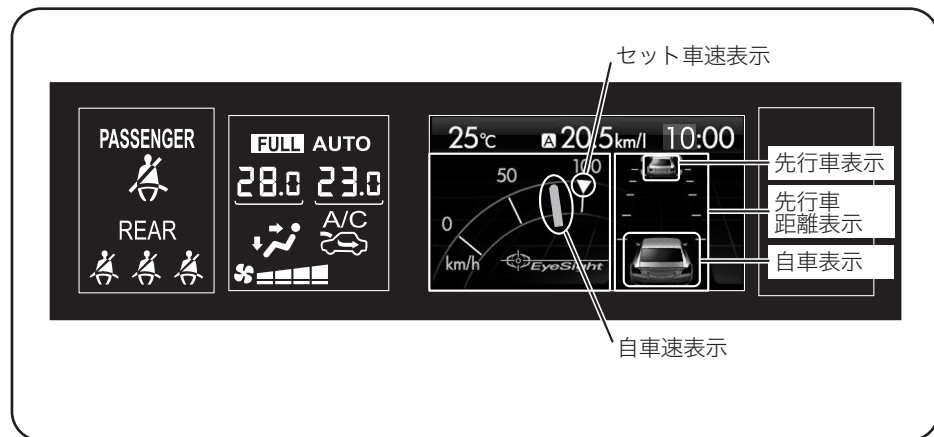
■定速クルーズコントロール

一定速度を保ちながら走行するモードです。追従走行は行いません。ステレオカメラが一時停止状態（65ページ参照）でも使用することができます。（この機能は全車速追従機能付クルーズコントロールから切り替えて使用します。）
☆54ページ参照

EyeSightはエンジンがかかっていないとき、作動しません。

表示構成

<メーター>

車線表示（左）
先行車表示
車間設定表示
車線表示（右）
定速クルーズ表示
ハンドル表示
追従クルーズ表示
SET表示
READY表示
セット車速表示
(TRIP表示部を使用)
[S]モード表示
マルチインフォメーション
ディスプレイ
EyeSight警告灯
車線逸脱警報OFF表示灯
プリクラッシュブレーキOFF表示灯
S00445

<マルチファンクションディスプレイ>

S00475

●クルーズ表示［追従クルーズ表示／定速クルーズ表示］

クルーズメインON時に点灯します。

アドバイス

（クルーズ）スイッチを押しながらエンジンを始動させると、EyeSight警告灯、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。この場合、一旦エンジンスイッチを OFF にして（クルーズ）スイッチに触れずに再度エンジンを始動させてください。

☆20ページ参照

●SET表示［全車速追従機能付/定速クルーズコントロール共通］

クルーズコントロールをセットすると表示が点灯します。車両が停止すると、クルーズコントロールが解除されるまで表示が点滅します。

☆21ページ参照

●READY表示

全車速追従機能付クルーズコントロールがセット可能なとき点灯します。

☆21ページ参照

●先行車表示

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中、先行車を認識すると点灯します。
- 下記の場合に車間設定表示とともに点滅します。
  - 先行車発進お知らせ機能が作動するとき
  - プリクラッシュブレーキが作動するとき
  - ブレーキ踏み増し要求警報が作動するとき
  - ＡＴ誤発進抑制制御が作動するとき
- 下記の場合に数回点滅します。
  全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして約 30 km/h 以下において、約 30 m以内で追従走行していた先行車がいなくなって自動的に解除されたとき

☆21ページ参照

●車間設定表示

（車間設定）スイッチで設定した車間設定を表示します。

- 下記の場合に先行車表示とともに点滅します。
  - ブレーキ踏み増し要求警報が作動するとき
  - プリクラッシュブレーキが作動するとき
  - AT誤発進抑制制御が作動するとき

☆20ページ参照

●自車速表示

自車速表示領域内の赤い指針で自車速を表示します。

●自車表示

自車がブレーキをかけているとき、ブレーキランプ表示が点灯します。

●先行車距離表示
全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に、先行車に追従しているとき、先行車との距離を先行車表示の位置で示します。

●セット車速表示
セット車速を表示します。
☆21ページ参照

●[S]モード表示
[S]モードを表示します。
☆13ページ参照

●車線逸脱警報OFF表示灯
- 車線逸脱警報およびふらつき警報がOFFのとき点灯します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。

☆49、52ページ参照

●プリクラッシュブレーキOFF表示灯
- プリクラッシュブレーキおよびAT誤発進抑制制御がOFFのときに点灯します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。

☆42、46ページ参照

●EyeSight警告灯
- EyeSightが故障したときに点灯または点滅します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約5秒後に消灯します。
- 点灯または点滅しているときは、EyeSightの全機能（全車速追従機能付クルーズコントロール、プリクラッシュブレーキなど全て）が使用できません。

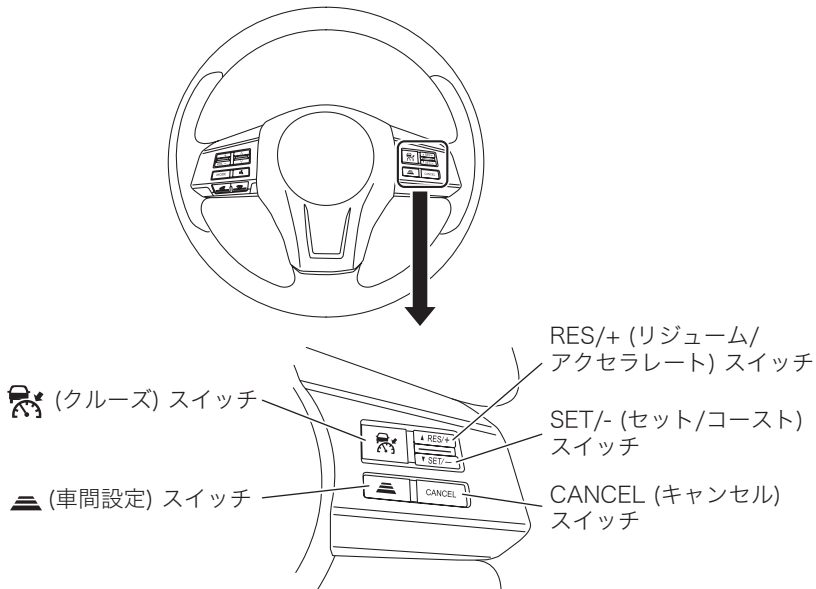
☆7ページ参照

●車線表示
- 車線逸脱警報が作動したとき、左右同時に点滅します。
- ふらつき警報が作動したとき、左右交互に点滅します。

☆47、50ページ参照

●ハンドル表示
車線逸脱警報またはふらつき警報が作動したとき、点滅します。
☆47、50ページ参照

スイッチ構成

■ステアリングスイッチ［全車速追従機能付/定速クルーズコントロール］

●（クルーズ）スイッチ

- クルーズコントロール※のON・OFFができます。

※ 全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

☆20ページ参照

- このスイッチを押してメーターに“ ”または“ ”が表示されている状態を「クルーズメインON」といいます。

●RES/SETスイッチ

SET/−（セット／コースト）

- クルーズコントロール※のセットができます。
- セット車速を下げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）
- 自車を減速させることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき長押し）

☆21、26、28ページ参照

RES/＋（リジューム／アクセラレート）

- クルーズコントロール※を解除後、解除前のセット車速に再びセットすることができます。
- セット車速を上げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）
- 自車を加速させることができます。（クルーズコントロール※がセット中の長押し、ただし先行車に追従走行を行っている場合は除く）

※ 全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

☆25ページ参照

●CANCEL（キャンセル）スイッチ

クルーズコントロール※のセット状態を解除できます。

※ 全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

☆30、62ページ参照

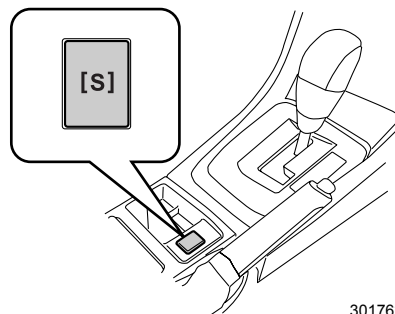
●（車間設定）スイッチ

- 車間距離の設定を「長」「中」「短」の３段階に切り替えることができます。（全車速追従機能付クルーズコントロールのみ）

☆29ページ参照

- （クルーズ）スイッチがONのとき、約2秒以上長押しすることで全車速追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えることができます。

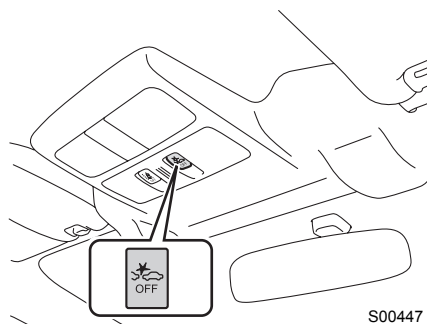
■[S]モードスイッチ

[S] モードに連動した追従特性の切り替えを行います。(全車速追従機能付クルーズコントロールのみ)

301762

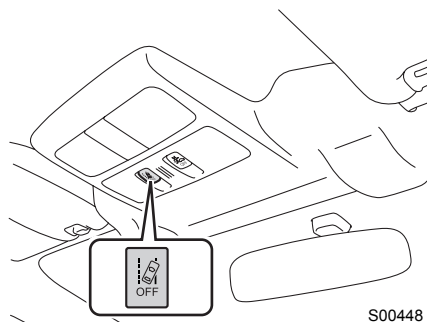
●[S]モードとの協調制御

[S]モード切り替えにより、全車速追従機能付クルーズコントロールの特性を変えることができます。
先行車への追従性能を重視した、メリハリのある追従走行を行います。

■プリクラッシュブレーキOFFスイッチ

約2秒以上長押しすることで、プリクラッシュブレーキおよびAT誤発進抑制制御をOFFにできます。
OFFにするとメーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。
再度スイッチを長押しすると、プリクラッシュブレーキおよびAT誤発進抑制制御がONになり、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。
☆42ページ参照

S00447

■車線逸脱警報OFFスイッチ

約2秒以上長押しすることで、車線逸脱警報およびふらつき警報をOFFにできます。
OFFにするとメーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。
再度スイッチを長押しすると、車線逸脱警報およびふらつき警報がONになり、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。
☆49ページ参照

S00448

全車速追従機能付クルーズコントロール

全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。前方の自車線上の先行車をステレオカメラにより認識し、運転者が設定した車速を上限として車速に応じた車間距離を自動的に保ちながら追従走行を行います。運転者の操作なしで停止状態を保持する機能はありません。

⚠ 警告

- あらゆる走行状況を判断して自動的に運転する装置ではありません。
- 全車速追従機能付クルーズコントロール機能を過信しないでください。わき見運転やぼんやり運転など、運転者の前方不注意や視界不良での運転操作を補助する装置ではありません。また、追突を防止する装置ではありません。
  運転時は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして車間距離を保ち、安全運転に努めてください。
- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※
  - 応急用スペアタイヤを装着しているとき※
  - 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※
  - サスペンションを改造したとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯が点灯しているとき
  - 重い荷物を積んで車が傾いているとき
  - 定員を超えているとき
  - トレーラーや車両などを牽引しているとき

  ※ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
  詳細は「インプレッサ取扱説明書」を参照ください。

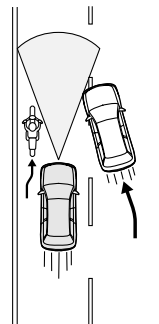
- 全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
  - 一般道（自動車専用道路以外）
    道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
  - 急カーブがある道
  - 凍結路や積雪路など滑り易い路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
    交通環境に沿った走行ができない場合があります。
  - 急な下り坂
    エンジンブレーキが効かないため、セットした車速を超えてしまう場合があります。
  - 急な下り坂が続く場合
    ブレーキが過熱するおそれがあります。
  - 急な上り坂、下り坂を繰り返す道や陸橋など
    先行車を認識できなかったり、路面を認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
  - インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリア、ジャンクション、料金所などに進入するとき
    先行車を認識できない場合があります。
  - トンネルの出入り口など、明るさが急に変化するとき
  - 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
    先行車を認識できなかったり、水などを認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
  - フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着しているとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが充分に拭き取れていないとき
    先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。
  - ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

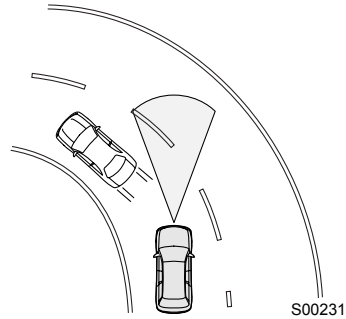
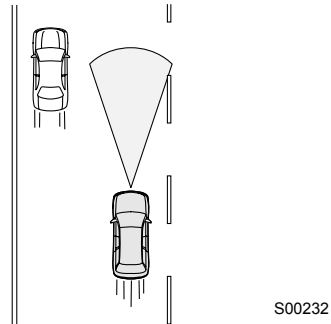
次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 次に挙げる物体または状況では、ステレオカメラでの認識が困難な場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの操作を行ってください。
  - 速度差が大きい車両（低速走行車両、停止車両、対向車）
  - 割り込み車両
  - 二輪車、自転車、歩行者、動物など
  - 夕方、朝方の薄暗いとき
  - 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプのハイビーム光など）を受けたとき
  - 前方車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）
    - ・荷台にあおりがない空荷のトラックなど
    - ・後端から積荷が飛び出している車両など
    - ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
    - ・車高の低い車両など
  - 自車バンパーの極めて近い位置に物体があるとき
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないときは、必ず（クルーズ）スイッチをOFFにしてください。スイッチをONにした場合、思わぬ場面でセットしてしまうなどして、事故につながるおそれがあります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを使用するときは、同乗者や車のまわりの安全を充分確認してください。また、車外からの操作は絶対にしないでください。

ステレオカメラによる先行車の認識について

- 次のような道路形状や、自車の状況によっては、先行車を認識できない場合があります。また、隣車線の車や路側の物体を認識してしまうことがあります。このような状況下では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。使用中の場合は、必要に応じてブレーキを踏むなどしてください。
  - 先行車が割り込んできたときなど、車間距離が短い状態から追従を始めたとき

S00182

– カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路（認識エリアから外れて認識できない場合があります）

– 先行車との位置が横にずれているとき

– 先行車との速度差が大きいとき
– 前方に車両が割り込んできたとき
– 極端に車間距離が狭いとき
– 自車が車線内で蛇行しているとき
– 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
– 車線規制や工事中などで、車線の幅が狭い道路を走行しているとき
– 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
– 自車の荷室やリヤシートに極端に重い荷物を積んだとき

- 全車速追従機能付クルーズコントロールの能力には限界があります。先行車を認識していても速度差が大きい場合や急減速した場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキを踏んで減速してください。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用してください。

☆「メンテナンスノート」参照

- ブザー音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。
  - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
  - 先行車が急減速したとき
  - 上り坂、下り坂が繰り返されるとき

⚠注 意

- 追従走行開始後は、先行車の動きに合わせて制御を続けます。先行車の停止に伴い自車も停止した場合は、停止後すぐにゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。（このとき“ピッ、ピッ、ピッ、ピー”とブザー音が鳴ります。）必ずブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。
  また、停車状態の保持および停止状態からの自動発進は行いません。
- 以下の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキを踏んで減速してください。
  - 車両の状態（積載量、乗員など）
  - 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
  - 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキの効きが悪くなっているとき

全車速追従機能付クルーズコントロールの機能

同一車線内に先行車がいない場合は、セットした車速で定速走行を行います。同一車線内に先行車がいる場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。先行車の停止に伴い自車も停止した場合は、停止後すぐに、ゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。自車が 約0 km/h ～100 km/h の範囲で作動します。

■ブレーキ踏み増し要求警報

全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ制御では減速しきれないと判断した場合に、ブザー音と表示でお知らせします。

☆34ページ参照

アドバイス

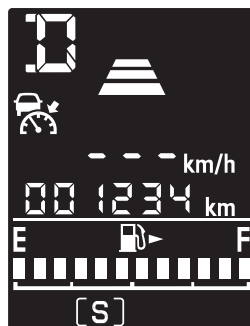
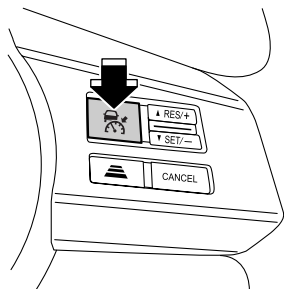
- 前方約90 m以内の同一車線上の先行車をステレオカメラによって認識します。ただし、交通環境、走行状態、先行車の状態によっては認識距離が短くなる場合があります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールでは、[S] モードに変更することによりモードの特徴を生かした追従走行をすることができます。
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときや、アクセラレート操作中のときであっても、加速しない場合があるほか、減速する場合もあります。
- (クルーズ) スイッチを押しても(追従クルーズ表示) が点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 自動ブレーキ中に作動音が多少聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。
- 自動ブレーキ中にブレーキを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。ブレーキを一度離すことにより元の状態に戻ります。

全車速追従機能付クルーズコントロールの使用方法

① 全車速追従機能付クルーズコントロールをスタンバイさせます。

（クルーズ）スイッチを押します。このとき、マルチインフォメーションディスプレイに“ ”（追従クルーズ表示）と“車間設定”が表示されます。（“ ”（追従クルーズ表示）が表示された状態をクルーズメインON、表示されていない状態をクルーズメインOFFといいます。）

トリップ表示部がセット車速表示部に切り替り“－－－ km/h”が表示されます。

＜マルチインフォメーションディスプレイ＞

S00449

また、マルチファンクションディスプレイには、以下のように表示されます。

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00481

② 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットします。
SET可能な状況になったときは、“READY”が表示されます。

＜マルチインフォメーションディスプレイ＞

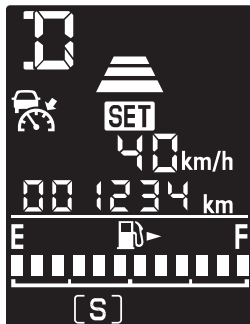
S00450

SET可能な状況：
下記条件が全て満たされているとき
- 運転席・助手席・後席の全てのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトが締められている
- 駐車ブレーキがかかっていない
- セレクトレバーが「D」にあり、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ内に“D”が表示されている
- ブレーキペダルを踏んでいない
- EyeSightが一時停止していない
- 道路が急な坂でない
- ハンドルを大きく切っていない
- VDCをOFFにしていないとき
- 自車速が約0 km/h～100 km/hのとき

次ページへ ⇒

⇒前ページより

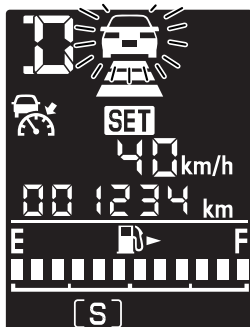
RES/SETスイッチをSET/－側に押します。
全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされ、制御が開始します。
メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにSET表示が点灯します。
先行車を認識していないときは定速走行します。（約40 km/h以下で走行中にセットした場合、セット車速は自動的に40 km/hに設定されます。）
また、マルチファンクションディスプレイには、セット車速表示が表示されます。

＜マルチインフォメーションディスプレイ＞　＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00451

S00498

先行車を認識すると、“ピッ”と鳴ると同時にマルチインフォメーションディスプレイに先行車表示が点灯します。
マルチファンクションディスプレイには、先行車表示が表示されます。
所定の車間距離を保って追従走行します。このとき、セット車速が速度の上限となります。
また、先行車を認識しなくなったときは、“ピッ”と鳴ると同時に先行車表示が消灯します。

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

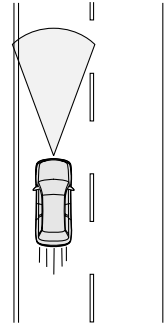
＜マルチインフォメーションディスプレイ＞　＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00452

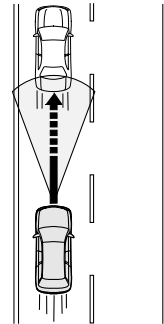
S00476

アドバイス

全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に、先行車を認識したとき／先行車を認識しなくなったときのブザー音（先行車捕捉音）は、カスタマイズによりOFFに変更することができます。
☆69ページ参照

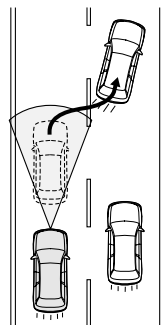
全車速追従機能付クルーズコントロールの作動

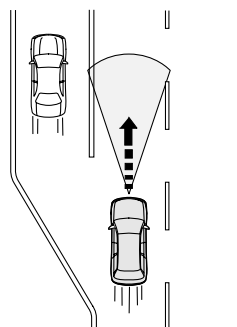
- 先行車がいない場合
  セット車速（約40 km/h ～100 km/h）で定速走行します。

S00139

- 先行車がいる場合
  セット車速（約40 km/h～100 km/h）を上限として、車速に応じた車間距離を保ちながら追従走行を行います。

S00140

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 先行車がいなくなった場合
  約30 km/h以下において、約30 m以内で追従走行していた先行車を認識しなくなったときは、“ピーッ”というブザー音とともに自動的に全車速追従機能付クルーズコントロールを解除します。
  このとき、先行車表示が点滅します。

S00205

前述以外で先行車を認識しなくなったときは、セット車速までゆっくりと加速し、定速走行を行います。
セット車速までの加速中に先行車を認識すると、再び追従走行を行います。

S00142

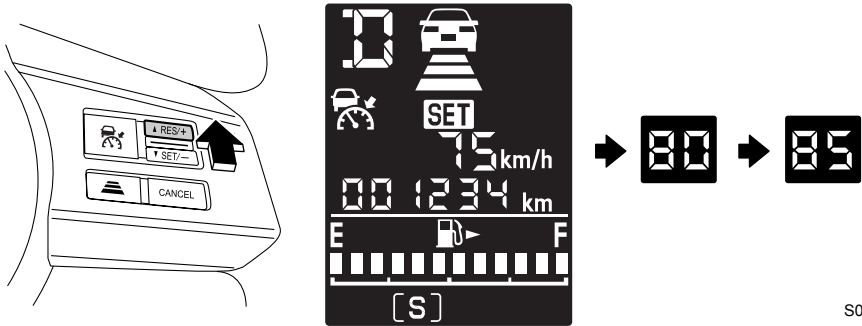
アドバイス

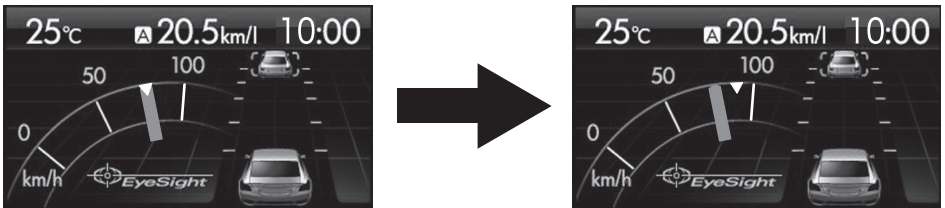
- セット車速は約40 km/h～100 km/hの範囲内でセットできます。
- 自車速が約40 km/h以下のときにセットした場合、セット車速は40 km/hにセットされます。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、制動灯が点灯します。
- セレクトレバーのⓂを選択している場合はセットできません。
- 素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

③セット車速を変えます。

セット車速を上げたいとき（タップアップ/アクセラレート）
次の2つの方法があります。

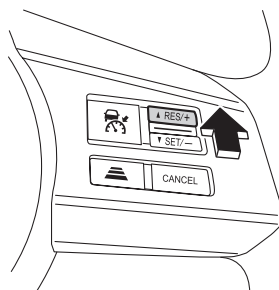
- タップアップ
  全車速追従機能付クルーズコントロールを設定して走行中に、RES/SET スイッチをRES/＋側に押すと、セット車速が5 km/hきざみで上がります。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにセット車速が表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>

S00453

<マルチファンクションディスプレイ>

S00477

次ページへ ⇒

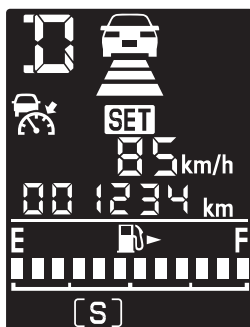
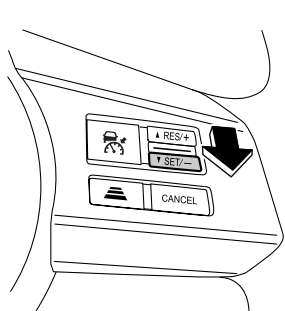
⇒前ページより

- アクセラレート
  先行車がいない場合に RES/SET スイッチをRES/＋側に長く押すと、押している間だけ加速します。
  このあと、スイッチを離したときの車速で再セットされます。

S00478

セット車速を下げたいとき（タップダウン/コースト）

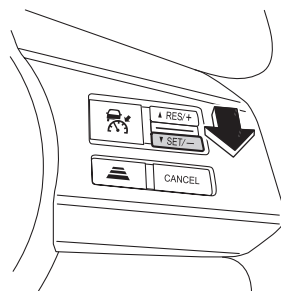
次の3つの方法があります。

- タップダウン
  全車速追従機能付クルーズコントロールを設定して走行中に、RES/SET スイッチをSET/ー側に押すと、セット車速が5 km/hきざみで下がります。
  メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにセット車速が表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>

S00454

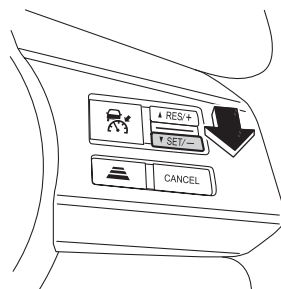
<マルチファンクションディスプレイ>

S00479

- コースト
  RES/SETスイッチをSET/－側に長く押すと、押している間だけ減速します。
  このあと、スイッチを離したときの車速で再セットされます。

S00480

アドバイス

先行車がいる状態でコーストして、自車速が約40 km/h未満になった後でスイッチを離したときは、40 km/hにセットされます。先行車がいない状態でコーストして自車速が約40 km/h未満になったときは、全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。

- ブレーキペダルによる方法
  ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。
  (全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。)
  希望の速度になったらRES/SETスイッチをSET/－側に押します。

S00480

④一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

次ページへ ⇒

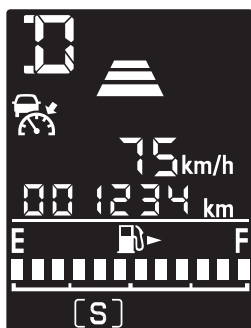
⇒前ページより

⑤ 減速したいときは、ブレーキペダルを踏みます。
このとき、全車速追従機能付クルーズコントロールは解除されます。
メーター内のマルチインフォメーションディスプレイのセット車速はそのまま表示され、セット待機状態になります。

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

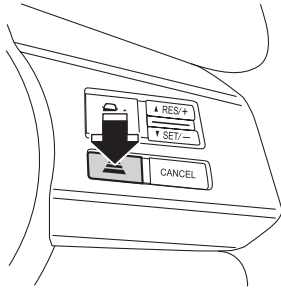
<マルチインフォメーションディスプレイ>

S00455

<マルチファンクションディスプレイ>

S00481

⚠ 注 意

- 全車速追従制御しているときは、先行車に合わせた車速で制御されるため、RES/SETスイッチをRES/＋側に押して、先行車の速度以上にセット車速を上げても加速しません。
  ただし、セット車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。セット車速はメーター内のマルチインフォメーションディスプレイのセット車速表示を確認しながら変更してください。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを設定中でアクセルペダルを踏んでいるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールによる自動ブレーキも警報も行いません。ただしこのときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、プリクラッシュブレーキによる警報やブレーキ制御が作動することがあります。
- 通常、追従制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

⑥ 車間設定を変えたいときは、先行車との車間距離を選ぶことができます。
(車間設定) スイッチを押すごとに先行車との車間距離が「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。

車間設定	ディスプレイ
長	
中	
短	

S00482

アドバイス

- (クルーズ) スイッチをOFFにしたり、エンジンをかけるたびに、車間設定は「長」の設定となります。
  再び車間設定を変えるときは、(車間設定) スイッチを押してください。
- 車間距離は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。
- 車速約100 km/hで走行しているとき、車間設定での車間距離の目安は次の通りです。
  長：約50 m
  中：約40 m
  短：約30 m
- 車速約 40 km/h で走行しているとき、車間設定での車間距離の目安は次の通りです。
  長：約25 m
  中：約20 m
  短：約15 m

次ページへ ⇒

⇒前ページより

⑦全車速追従機能付クルーズコントロールを解除します。

運転者操作による解除方法

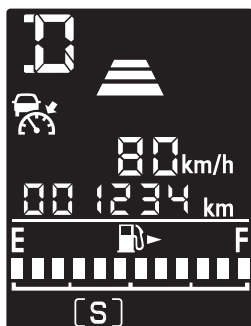
次のいずれかの操作で全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。

- CANCEL（キャンセル）スイッチを押す、またはブレーキペダルを踏む。

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

＜マルチインフォメーションディスプレイ＞

S00456

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00481

次の場合は、“ピッ、ピッ、ピッ、ピー”というブザー音とともに全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されます。運転者の操作なしで停止状態を保持する機能はありません。

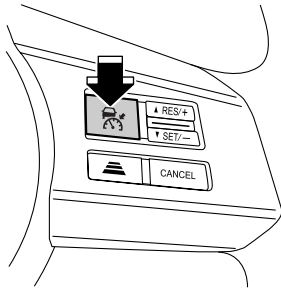
- 条件
  - 先行車の停止に伴い自車も停止したとき

> ⚠ **注 意**
>
> 停止後すぐに、ゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。必ずブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

アドバイス

- 一時停止した場合は、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が点灯し、クルーズメインON時はメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにE1～E3が表示されます。
- EyeSight が故障した場合は EyeSight 警告灯、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度エンジンを止めてから再びエンジンを始動してください。この操作をしても表示が点灯し続けるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSight の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

- (クルーズ)スイッチを押す。

＜マルチインフォメーションディスプレイ＞

S00457

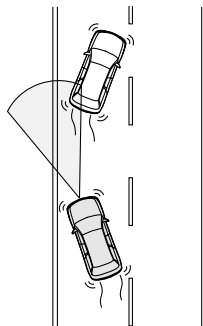
メーター内のマルチファンクションディスプレイは、EyeSight以外の表示に戻ります。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

システムによる自動解除

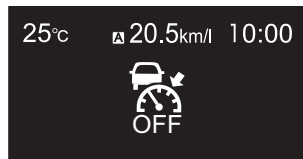
次の場合は、“ピーッ”というブザー音とともに全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されます。運転者の操作なしで停止状態を保持する機能はありません。

- 条件
  - ー ABS、VDCまたはTCSが作動したとき
  - ー 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
  - ー 運転席のシートベルトを外したとき
  - ー 駐車ブレーキをかけたとき
  - ー 道路の勾配が急なとき
  - ー 自車速が約140 km/h以上になったとき（急な下り坂など）
  - ー 約30 km/h以下において、約30 m以内で追従走行していた先行車がいなくなったとき（このとき先行車表示が点滅します）

S00200

  - ー 先行車がいない状態でコースト操作中に自車速が約40 km/h未満になったとき
  - ー セレクトレバーを[D]レンジ以外にしたとき
    [D]レンジに戻すことにより再度使用することができます。
  - ー セレクトレバーを[M]にしたとき
    [D]レンジに戻すことにより再度使用することができます。
  - ー [D]レンジで走行中パドルシフトを操作したとき
    シフト表示が[D]に戻ると再度使用することができます。
  - ー VDCをOFFにしたとき
    VDCをONに戻すことにより再度使用することができます。
  - ー ハンドルを大きく回したとき
  - ー EyeSightが故障したとき※
  - ー EyeSightが一時停止したとき※

※65ページ参照

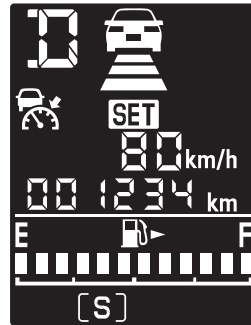
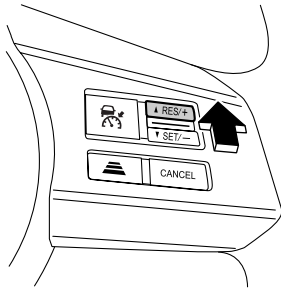
このとき、マルチファンクションディスプレイには、以下のいずれかが表示されます。

<マルチファンクションディスプレイ>

S00499

⚠ 警告

滑りやすい路面では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

⑧ メモリーされている車速に再びセットします。
メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにセット車速が表示されている場合は前回のセット車速がメモリーされていますので、その車速に再びセットしたいときは、RES/SETスイッチをRES/＋側に押します。（メーター内のマルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態の表示になります）

＜マルチインフォメーションディスプレイ＞

S00458

また、マルチファンクションディスプレイには、以下のように表示されます。

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00500

次ページへ ⇒

⇒前ページより

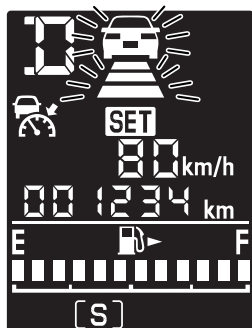
⑨ ブレーキ踏み増し要求警報は、ブレーキ制御による減速では不充分と判断した場合に、ブザー音と表示でお知らせします。
ブレーキ踏み増し要求警報は全車速追従機能付クルーズコントロールによる追従走行中に作動します。ブレーキ制御による減速では不充分と判断した場合、運転者に注意を促す機能です。

- この機能が作動すると、マルチインフォメーションディスプレイの先行車表示と車間設定表示が点滅し、ブザーが“ピピピ…”と鳴ります。
- この機能が作動した場合は、必要に応じてブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>

S00459

<マルチファンクションディスプレイ>

S00483

> **⚠ 警告**
>
> - ブザー音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
> - 次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。
>   - アクセルペダルを踏んでいるとき
>   - ブレーキペダルを踏んでいるとき
> - 短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しないことがあります。
>   - 先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
>   - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
>   - 他車が至近距離に割り込んできたとき
>   - 先行車が急減速したとき
>   - 上り坂、下り坂が繰り返されるとき
> - 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や、自車速より極端に車速が遅い車両は認識が遅れて、ブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

プリクラッシュブレーキ

前方障害物に衝突する可能性がある場合、運転者への警報による衝突回避の支援を行います。それでも運転者の衝突回避操作がない場合、衝突の直前に自動的に急ブレーキをかけ、衝突被害を軽減または衝突を回避します。また、衝突する可能性が高い場合に運転者がブレーキペダルを踏み込んだときにブレーキアシストが作動します（プリクラッシュブレーキアシスト）。
これらの機能は、フルラップ（正面）衝突だけでなくオフセット（右または左）衝突にも対応しています。セレクトレバーがD、MまたはNで作動します。

⚠ 警告

- プリクラッシュブレーキおよびプリクラッシュブレーキアシストを、日常の車両停止のためには絶対に使用しないでください。プリクラッシュブレーキはあらゆる状況で衝突を回避するものではありません。ブレーキの作動をプリクラッシュブレーキのみに頼っていると、衝突事故を起こす場合があります。
- 警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキを踏むなどの適切な操作をしてください。
- EyeSightのプリクラッシュブレーキ機能は、主に車両への追突の回避、あるいは、追突の被害を軽減することを目的として設計しています。また、車両以外にも二輪車、自転車、歩行者を制御の対象としていますが、条件（※）によっては認識できない場合があります。プリクラッシュブレーキ機能は衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますので、その効果は様々な条件（※）により変わります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。
- プリクラッシュブレーキが作動したとき、アクセル操作をしてもプリクラッシュブレーキを継続します。ただし、アクセルを全開に踏み込むとプリクラッシュブレーキを解除します。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。
- 前方の車両との速度差が30 km/hより大きい場合、EyeSightの性能限界から衝突を回避することはできません。また、速度差が約30 km/h以下であっても、他の車両が急に割り込んだ場合や、視界、路面の滑りやすさなどの条件（※）の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともあります。また、プリクラッシュブレーキアシストも同様に条件（※）の違いにより作動しないことがあります。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

※条件
- ー 前方車両との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（オフセット量）
- ー 車両の状態（積載量、乗員など）
- ー 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- ー 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- ー 対象物が次の場合
  - ・家畜や動物（例えば、鹿や犬）など
  - ・ガードレール、電柱、木、フェンスや壁など
- ー 対象物が二輪車、自転車、歩行者であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、制御対象とシステムが認識できない場合
- ー 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき
- ー 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- ー トレーラーや車両などをけん引しているとき
- ー 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- ー 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの利きが悪くなっているとき
- ー 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの利きが悪くなっているとき
- ー ステレオカメラの認識状態

特に次の場合は止まりきれないことや、作動しない可能性が高くなります。
- ・悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
- ・先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が充分でないとき
- ・夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- ・夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- ・夜間の二輪車、自転車、歩行者に対する接近
- ・夕方、朝方の薄暗いとき

- 前方車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）
  - 荷台にあおりがない空荷のトラックなど
  - 後端から積荷が飛び出している車両など
  - 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
  - 車高の低い車両など
- 停車している車両の前に壁などがあるとき
- 横向きに停車した車両など
- 対向車両やバックしてくる車両など
- 大きさや高さがステレオカメラ認識限界より小さいとき
  - 小動物や幼児など
  - しゃがんでいる人や横たわっている人など
- 先行車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 自車バンパーの極めて近い位置に車、二輪車、自転車、歩行者が存在するとき
- 速度差が約5 km/h以下の場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 車、二輪車、自転車、歩行者が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 自車が車線変更を行い、先行車のすぐ後ろに接近したとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプのハイビーム光など）を受けたとき
- フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着しているとき
- ウインドゥウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分に拭き取れていないとき
- 雨滴やウインドゥウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき
- ヘッドランプ照射範囲外に車、二輪車、自転車、歩行者が存在するとき
- 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- トンネルの出入り口を通過するとき
- 対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁、シャッターなどのとき
- 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。プリクラッシュブレーキ機能を OFF にしてください。また、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

☆42ページ参照

- タイヤの空気圧が適正でないとき※
- 応急用スペアタイヤを装着しているとき※
- 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※
- 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※
- サスペンションを改造したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- ヘッドランプが汚れていたり光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき
- 重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 定員を超えているとき

※ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
詳細は「インプレッサ取扱説明書」を参照ください。

注 意

- 次のような場合は、必ずプリクラッシュブレーキをOFFにしてください。プリクラッシュブレーキが予期しない作動をする可能性があります。

☆42ページ参照

  - けん引されるとき
  - キャリアカーに積載するとき
  - シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
  - リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
  - 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
  - サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 次のような場合は、プリクラッシュブレーキが作動することがありますので安全運転に努めてください。
  - ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
  - 前車に接近して走行するとき
  - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
  - 水蒸気や煙のかたまりを通過するとき
  - カーブや交差点に障害物があるとき
  - 車両や障害物の横すれすれを通過するとき
  - 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

- プリクラッシュブレーキによる停止後、約2秒でゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。必ずブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。
- フロントバンパー先端より前方に突出した用品装着や積載をした場合、車両の長さが長くなるため、衝突を回避できないことがあります。

アドバイス

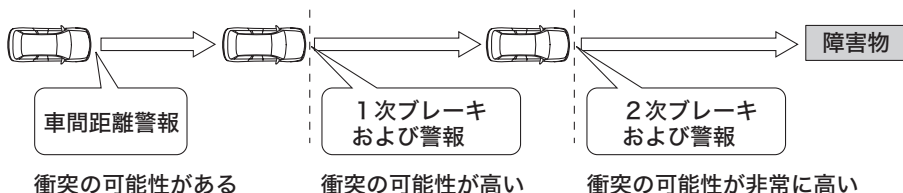
- プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときはプリクラッシュブレーキは作動しません。プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯する主な条件は、次のような場合です。
  – プリクラッシュブレーキOFFスイッチを約2秒以上長押ししたとき
  – VDC OFFスイッチを押してVDCを作動停止状態にしたとき
  – EyeSightが故障したとき※
  – EyeSightが一時停止したとき※
  ※65ページ参照
- 自動ブレーキ中に作動音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。
- 自動ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

プリクラッシュブレーキの作動

走行中、前方に障害物があるとき、以下の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、制動灯も点灯します。

車間距離警報：
衝突の可能性があると判断した場合に、“ピピピ…”というブザー音とマルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイの表示で注意を促します。車間距離警報は全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていないときに作動します。ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離をとると解除します。

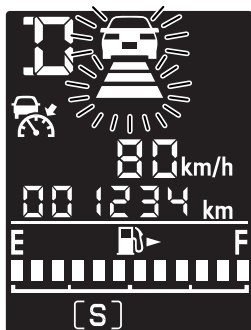
1次ブレーキおよび警報：
走行時に前方障害物に衝突する可能性が高いと判断した場合、“ピピピ…”というブザー音とメーター内の表示で注意を促し、ブレーキ制御を行います。運転者の衝突回避操作（ブレーキ、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

2次ブレーキおよび警報：
さらに衝突する可能性が非常に高いと判断した場合、“ピーー…”というブザー音に変わり、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。その後、運転者による衝突回避操作の有無にかかわらず、衝突が回避できないと判断した場合、ブレーキ制御を継続します。停止後は、“ピッ、ピッ、ピッ、ピー”というブザー音に変わり、約2秒でゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。

	自動ブレーキの強さ	追従クルーズ動作表示および車間距離警告灯の点灯	マルチファンクションディスプレイ表示画面	ブザー音
車間距離警報	ブレーキ制御なし	「 」が点滅	「前方注意」	ピピピ…
１次ブレーキおよび警報	弱い	「 」が点滅	「前方注意」	ピピピ…
２次ブレーキおよび警報	強い	「 」が点滅	「前方注意」	ピーー…

S00497

<マルチインフォメーションディスプレイ>

S00462

<マルチファンクションディスプレイ>

S00483

⚠ 注 意

EyeSight警告灯が点灯または点滅しているときは、プリクラッシュブレーキは作動しません。

アドバイス

自車速が約 1km/h 以下または約 140 km/h 以上のときはプリクラッシュブレーキは作動しません。また、VDCまたはTCSが作動したときもプリクラッシュブレーキは作動しません。

プリクラッシュブレーキアシストの作動

車速が約10 km/h以上で走行中、プリクラッシュ 1次ブレーキ作動後（前方障害物に衝突する可能性が高いと判断後）、運転者がブレーキペダルを踏み込んだとき、緊急制動と判断し、ブレーキアシストが作動します。

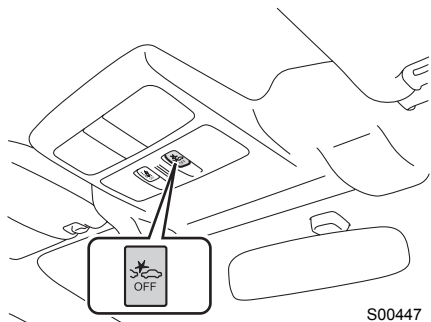
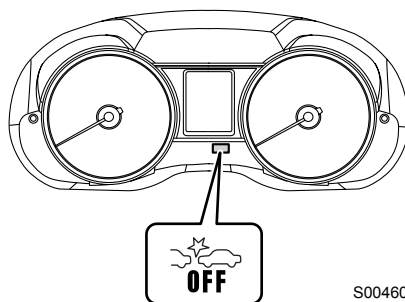
⚠ 注 意

車間距離警報だけ作動している状態で運転者がブレーキペダルを踏んでも、プリクラッシュブレーキアシストは作動しません。（運転者による通常の制動力で減速します。）

アドバイス

ブレーキアシスト機能については「インプレッサ取扱説明書」をご参照ください。

プリクラッシュブレーキをOFFにするとき

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを約２秒以上長押しすることによって、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストも含む）を OFF にすることができます。OFFにすると、メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。ONに戻すときは再度プリクラッシュブレーキOFFスイッチを約2秒以上長押ししてください。ONにすると、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。

アドバイス

- プリクラッシュブレーキをOFFにすると、AT誤発進抑制制御もOFFになります。
- プリクラッシュブレーキをOFFにしても、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動するとプリクラッシュブレーキはONになります。

AT誤発進抑制制御

前方に障害物を認識している場合、停車または徐行状態から、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し発進をゆるやかにします。
AT 誤発進抑制制御を過信しないでください。AT 誤発進抑制制御は衝突を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を充分ご確認のうえ、操作をするなど安全運転に努めてください。

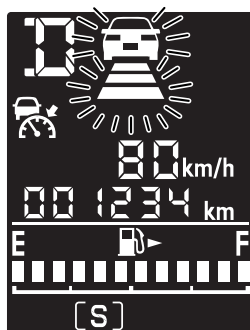
S00461

このシステムが作動すると、ブザーが“ピピピ･･･”と鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに先行車表示と車間設定表示が点滅します。
この機能はセレクトレバーをDまたはMにしているときに作動します。

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

＜マルチインフォメーションディスプレイ＞

S00462

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00483

⚠ 警 告

- AT誤発進抑制制御は停止状態を保つものではありません。
- AT 誤発進抑制制御はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。
- AT 誤発進抑制制御は前方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など障害物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に障害物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を AT 誤発進抑制制御のみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラが遮断機を障害物と認識し、AT 誤発進抑制制御が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるかまたはAT誤発進抑制制御をOFFにしてください。

☆46ページ参照

- 次の条件の違いにより作動しないことがあります。
  - 障害物との距離、速度差、横方向のずれ具合（オフセット量）
  - ステレオカメラの認識状態
    特に次の場合は作動しない可能性が高くなります。
    - ・悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
    - ・砂や煙が舞い、視界が充分でないとき
    - ・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
    - ・屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
    - ・障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両など）
    - ・障害物の大きさがステレオカメラの認識限界より小さいとき
      - ・小動物や幼児など
      - ・しゃがんでいる人や横たわっている人など
    - ・障害物や前方車両（トレーラーなど）の最後面が小さいときや、接近しすぎたとき（最後面ではない部分を認識して作動し効果が充分でないこともあります）
    - ・車、二輪車、自転車、歩行者などの障害物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
    - ・発進時に自車が進路変更を行い、障害物のすぐ後ろに接近したとき
    - ・前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプのハイビーム光など）を受けたとき
    - ・フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着しているとき
    - ・ウインドゥウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分に拭き取れていないとき
    - ・雨滴やウインドゥウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
    - ・ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき
    - ・ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
    - ・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂のとき
    - ・対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁、シャッターなどのとき
    - ・対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
  - 運転者のハンドル操作状態から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき

⚠ 注意

- 次のような場合は、必ずAT誤発進抑制制御をOFFにしてください。AT誤発進抑制制御が予期しない作動をする可能性があります。

☆46ページ参照

 – けん引されるとき
 – キャリアカーに積載するとき
 – シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
 – リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
 – 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
 – サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 次のような場合は、AT 誤発進抑制制御が作動することがありますので安全運転に努めてください。
 – 前車に接近して走行するとき
 – ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
 – 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
 – 水蒸気や煙のかたまりを通過するとき
 – カーブや交差点に障害物があるとき
 – 車両や障害物の横すれすれを通過するとき
 – 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

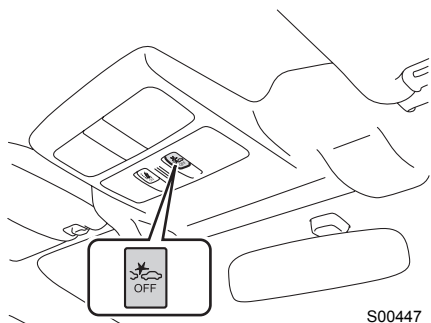
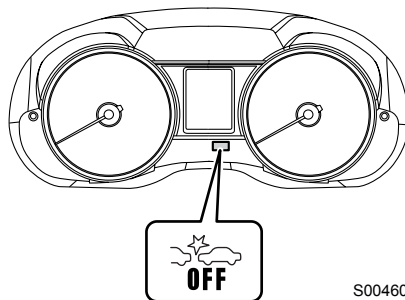
アドバイス

プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときは、AT誤発進抑制制御は作動しません。プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯する主な条件は、次のような場合です。

- プリクラッシュブレーキOFFスイッチを約2秒以上長押ししたとき
- VDC OFFスイッチを押してVDCを作動停止状態にしたとき
- EyeSightが故障したとき※
- EyeSightが一時停止したとき※

※65ページ参照

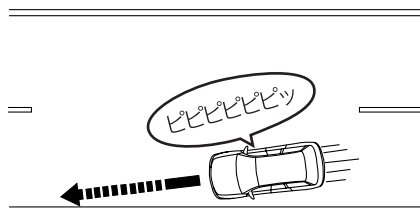
AT誤発進抑制制御をOFFにするとき

プリクラッシュブレーキOFFスイッチを約2秒以上長押しすることによって、AT誤発進抑制制御をOFFにすることができます。OFFにすると、メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度プリクラッシュブレーキOFFスイッチを約2秒以上長押ししてください。ONにすると、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。

アドバイス

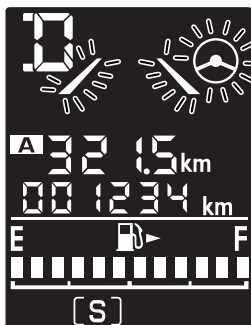
- AT誤発進抑制制御をOFFにするとプリクラッシュブレーキもOFFになります。
- AT誤発進抑制制御をOFFにしても、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動するとAT誤発進抑制制御はONになります。

車線逸脱警報

車速が約40 km/h以上のときに車線を逸脱しそうになると注意を促します。

車線逸脱警報が作動するとブザー音が“ピピピピピピッ”と鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイのハンドル表示と左右の車線表示が同時に点滅します。
また、ふらつき警報※が作動した後も、ふらつきが収まらない場合は、車線逸脱警報が通常より早いタイミングで作動します。
※50ページ参照

S00422

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>　**<マルチファンクションディスプレイ>**

S00463

S00484

⚠ 警　告

車線逸脱警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、車線逸脱を自動的に回避するものでもありません。車線の維持を車線逸脱警報のみに頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあります。
車線逸脱警報は車線（区画線）を認識している場合に警報するものであり、路肩や側溝など道路の端を認識して警報する機能ではありません。

⚠ 注 意

次の場合、車線逸脱警報は作動しないまたは作動しにくい場合があります。
- 車線逸脱警報をOFFにしているとき※
- 自車の速度が約40 km/h未満のとき
- 一度車線逸脱警報を行った後の約7秒間
- ハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- ブレーキを踏んでいるとき
- アクセルを踏んで加速しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 方向指示器作動中とレバーを戻した後の約7秒間
- 車線逸脱警報作動後、車線の内側に戻っていないとき
- 車線の幅が狭いとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線(白線など)がないまたは消えかかっている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線の幅が細いなど
- 先行車が障害物を避けるため回避行動をとり、それに続いて自車もハンドル操作を行ったとき

※49ページ参照

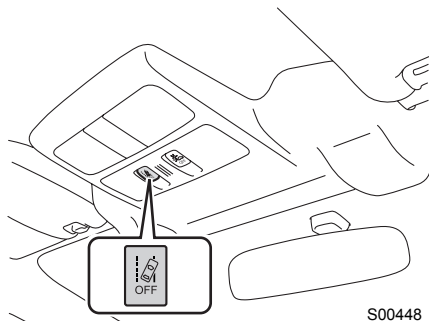
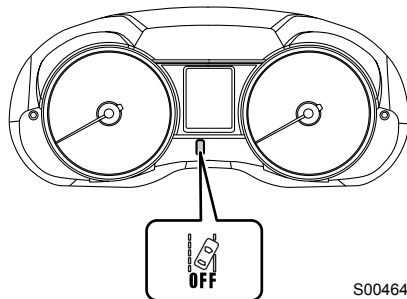
アドバイス

次の場合、車線を誤って認識し、車線逸脱警報が作動することがあります。
- 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡など
- 雪とアスファルトの境目や道路の補修跡など
- 二重車線など
- ガードレールの影など

車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しているときは、車線逸脱警報は作動しません。
車線逸脱警報OFF表示灯が点灯する主な条件は、次のような場合です。
- 車線逸脱警報OFFスイッチを約2秒以上長押ししたとき
- VDC OFFスイッチを押してVDCを作動停止状態にしたとき
- EyeSightが故障したとき※
- EyeSightが一時停止したとき※

※65ページ参照

車線逸脱警報をOFFにするとき

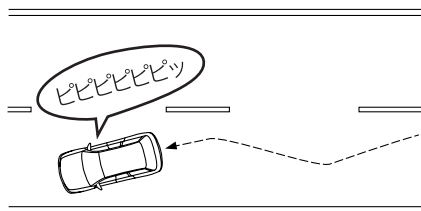
車線逸脱警報OFFスイッチを約2秒以上長押しすることによって、車線逸脱警報をOFFにすることができます。OFFにすると、メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。ONに戻すときは再度車線逸脱警報OFFスイッチを約2秒以上長押ししてください。ONにすると、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。

アドバイス

- 車線逸脱警報をOFFにすると、ふらつき警報もOFFになります。
- エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

ふらつき警報

車線内での車両の蛇行パターンからふらつきを認識し注意を促します。

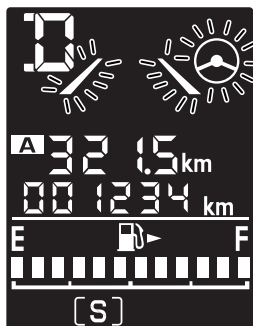
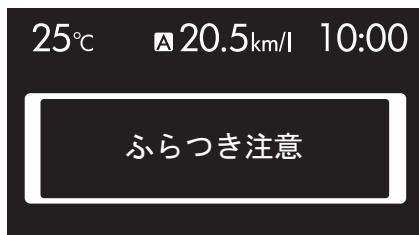
ふらつき警報が作動するとブザー音が“ピピピピピピッ”と鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにハンドル表示が点滅し、車線表示が左右交互に点滅します。

車速が約50 km/h以上で作動します。

S00423

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>

S00463

<マルチファンクションディスプレイ>

S00485

⚠ 警 告

ふらつき警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、ふらつきを自動的に修正するものでもありません。自車がふらつかないようにすることをふらつき警報のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

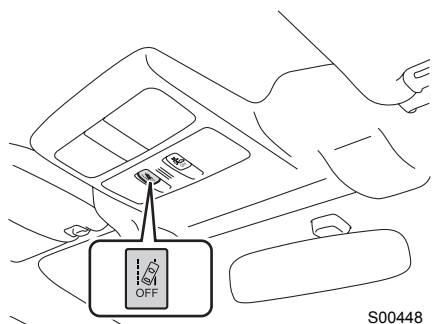
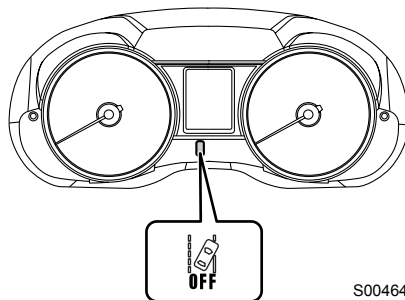
次の状況の時は、作動しない場合があります。
- カーブが連続する道を走行しているとき
- 車速が大きく変動するとき
- 車線変更をした直後のとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線(白線など)がないまたは消えかかっている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線の幅が細いなど

アドバイス

- ふらつきは過去数分間の走行データを元に認識しています。ふらつきはじめてもすぐには認識できません。また、ふらつきが収まったあともしばらくふらつき警報の作動が続くことがあります。
- ふらつき警報はつかれた時やよそ見など運転への集中度が落ちた時にも警報を行うことがあります。必要に応じてこまめに休憩をとることをお奨めします。
- 車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しているときは、ふらつき警報は作動しません。車線逸脱警報OFF表示灯が点灯する主な条件は、次のような場合です。
  - 車線逸脱警報OFFスイッチを約2秒以上長押ししたとき
  - VDC OFFスイッチを押してVDCを作動停止状態にしたとき
  - EyeSightが故障したとき※
  - EyeSightが一時停止したとき※

※65ページ参照

ふらつき警報をOFFにするとき

車線逸脱警報OFFスイッチを約2秒以上長押しすることによって、ふらつき警報をOFFにすることができます。OFFにすると、メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。ONに戻すときは再度車線逸脱警報OFFスイッチを約2秒以上長押ししてください。ONにすると、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。

アドバイス

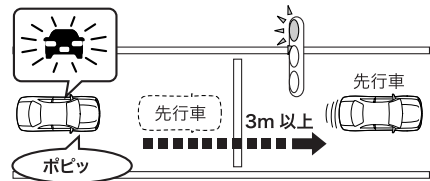
ふらつき警報をOFFにすると、車線逸脱警報もOFFになります。エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

先行車発進お知らせ

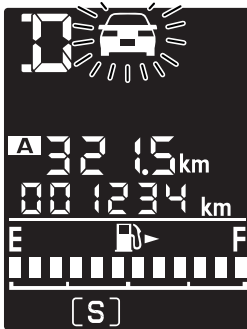
先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、ブザー音と表示でお知らせします。

先行車に続いて停車（車間距離が約 10 m 以内、かつ自車がしばらく停車）すると先行車を認識し続け、先行車が発進して約３ｍ以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

この機能はセレクトレバーがD、Nまたは Mで作動します。

この機能が作動すると“ポピッ”というブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに先行車表示が点滅します。

S00385

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>　<マルチファンクションディスプレイ>

S00465

S00486

アドバイス

次のような状況では、先行車が発進していなくても先行車発進お知らせが働いてしまう場合や、先行車が発進していても先行車発進お知らせが働かない場合があります。

- 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- 天候や道路形状などにより、先行車を認識できないとき
- ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- Dレンジで運転者がブレーキを踏んでいないときは、作動しません。

定速クルーズコントロール

定速クルーズコントロールについて

定速クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。運転者が設定した車速を保ちながら、一定の速度で走行することができます。

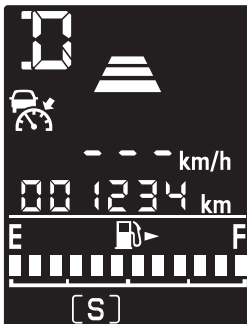
⚠ 警告

- 定速クルーズコントロール中は車間距離を保つ追従走行を行いません。
  先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので定速クルーズコントロールを使わないでください。
  - 交通量の多い道や急カーブのある道
    道路状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - 急な下り坂
    急な下り坂ではエンジンブレーキが充分効かないため、セット車速を超えてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

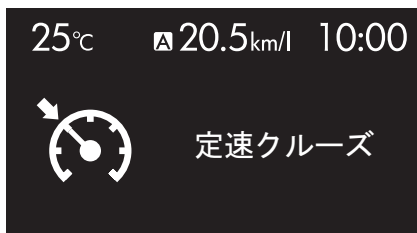
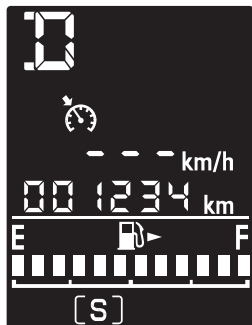
クルーズコントロールを使用するときは、全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールのどちらのクルーズコントロールが選択されているかをメーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイで必ず確認してください。

- 全車速追従機能付クルーズコントロール
  - 車間設定表示があります。
  - (追従クルーズ表示)があります。

<マルチインフォメーションディスプレイ>

<マルチファンクションディスプレイ>

S00481

- 定速クルーズコントロール
  - 車間設定表示がありません。
  - (定速クルーズ表示)があります。

<マルチインフォメーションディスプレイ>　**<マルチファンクションディスプレイ>**

S00487

アドバイス

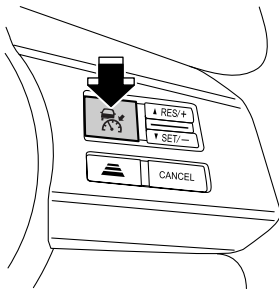
- (クルーズ)スイッチをONにしたときは、初めは全車速追従機能付クルーズコントロールになります。
- クルーズコントロールの切り替えは、(車間設定)スイッチを約2秒以上長押しする事により行います。
  (クルーズメイン ON で全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロールをセットしていないときのみ有効)

定速クルーズコントロールの使用方法

以下の条件のときにセットできます。

- セレクトレバーが[D]のとき
- ブレーキペダルを離しているとき
- 自車速が約40 km/h〜100 km/hのとき

① 定速クルーズコントロールをスタンバイさせます。
(クルーズ）スイッチを押します。このときメーター内のマルチインフォメーションディスプレイに(追従クルーズ表示）と“車間設定”が表示されます。(クルーズ）スイッチを押したときは常に全車速追従機能付クルーズコントロールとして起動します。

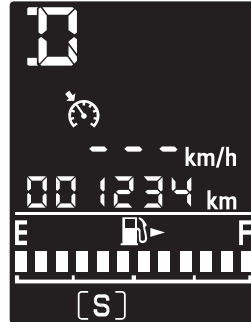
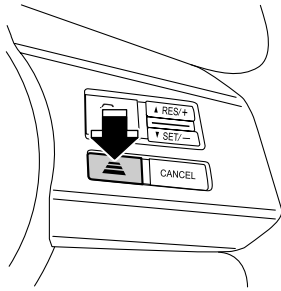
＜マルチインフォメーションディスプレイ＞

S00449

また、マルチファンクションディスプレイには、以下のように表示されます。

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00481

(車間設定)スイッチを約2秒以上押して全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えます。“ピッ”というブザー音がします。このときメーター内のマルチインフォメーションディスプレイの車間設定表示が消え、(定速クルーズ表示)が表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>

S00468

また、マルチファンクションディスプレイには、以下のように表示されます。

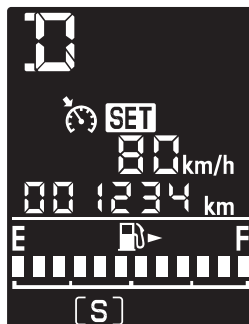
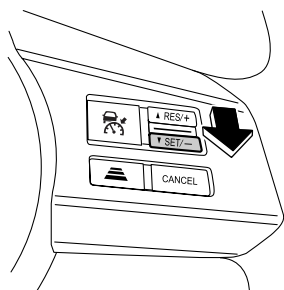
<マルチファンクションディスプレイ>

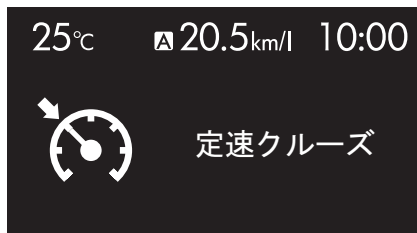
S00487

次ページへ ⇒

⇒前ページより

②定速クルーズコントロールをセットします。
車速が約40 km/h～100 km/hのときに、RES/SETスイッチをSET/－側に押します。
スイッチを押し下げたときの車速がセット車速となり、定速走行します。
メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに“SET”とセット車速が表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>

S00469

<マルチファンクションディスプレイ>

S00487

警告

定速クルーズコントロール作動中は、ブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。

注意

- 定速クルーズコントロールでは、先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御を行いません。必要に応じてアクセル、ブレーキ操作をしてください。
- 急な下り坂などでは、セットした車速を超えてしまう場合があります。必要に応じてブレーキ操作を行ってください。

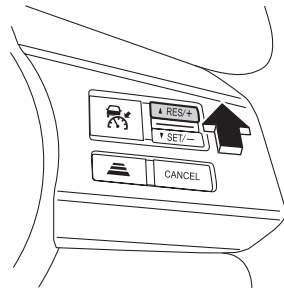
アドバイス

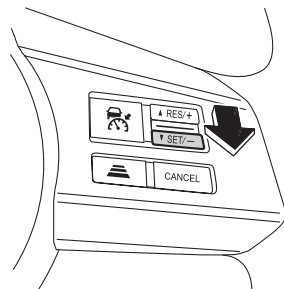
- 全車速追従機能付クルーズコントロールに戻したいときは、定速クルーズコントロールを解除して、（車間設定）スイッチを約2秒間長押しします。
- 定速クルーズコントロールで走行中、アクセルペダルを踏むと加速しますが、アクセルペダルを戻すとセットした車速で定速走行に戻ります。

③セット車速を変えます。

セット車速を上げたいとき（タップアップ/アクセラレート）

次の3つの方法があります。

- タップアップ
  RES/SETスイッチをRES/＋側に押すと、セット車速が1 km/hきざみで上がります。（自車速とセット車速の差が約5 km/h以内のとき）
- アクセラレート
  RES/SETスイッチをRES/＋側に長く押すと、押している間だけ加速します。
  このあと、スイッチを離したときの車速で再セットされます。

S00478

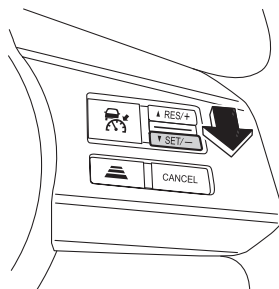
- アクセルペダルによる方法
  アクセルペダルを踏み、速度を上げます。希望の速度になったらRES/SETスイッチをSET/－側に押します。スイッチを離したときの車速で再セットされます。

S00488

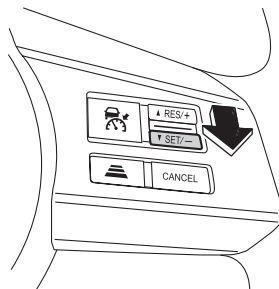
次ページへ ⇒

⇒前ページより

セット車速を下げたいとき（タップダウン/コースト）

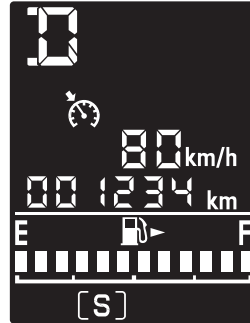
次の3つの方法があります。

- タップダウン
  RES/SETスイッチをSET/−側に押すと、セット車速が1 km/hきざみで下がります。（自車速とセット車速の差が約5 km/h以内のとき）
- コースト
  RES/SETスイッチをSET/−側に長く押すと、押している間だけ減速します。このあと、スイッチを離したときの車速で再セットされます。

S00488

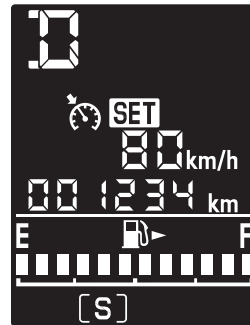
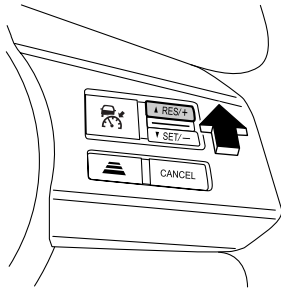
- ブレーキペダルによる方法
  ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。（定速クルーズコントロールが解除されます。）希望の速度になったらRES/SETスイッチをSET/−側に押します。スイッチを離したときの車速で再セットされます。

S00488

④一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

⑤減速したいときは、ブレーキペダルを踏みます。このとき、定速クルーズコントロールは解除されます。

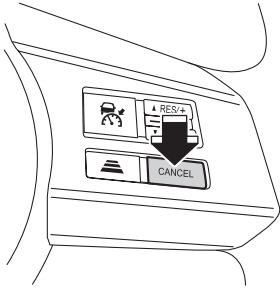
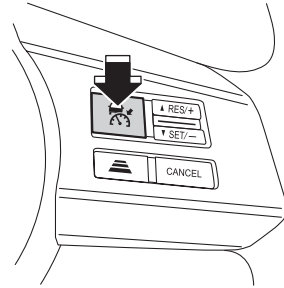
＜マルチインフォメーションディスプレイ＞

S00489

解除前のセット車速で再び設定したいときは、RES/SETスイッチをRES/＋側に押します。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態の表示になります。

＜マルチインフォメーションディスプレイ＞

S00470

次ページへ ⇒

⇒前ページより

⑥定速クルーズコントロールを解除したいときは、次のいずれかの操作をします。
- CANCEL（キャンセル）スイッチを押す。
- (クルーズ）スイッチを押す。
- ブレーキペダルを踏む。

S00490

S00491

システムによる自動解除

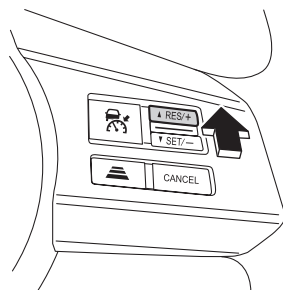
次の場合は“ピーッ”というブザー音とともに制御が自動で解除されます。以下の条件が解消された後に再度セット操作をしてください。

- セレクトレバーをDレンジ以外にしたとき
  Dレンジに戻すことにより、再度使用することができます。
- セレクトレバーをMにしたとき
  Dレンジに戻すことにより再度使用することができます。
- Dレンジで走行中パドルシフトを操作したとき
  シフト表示がDに戻ると再度使用することができます。
- VDCをOFFにしたとき
  VDCをONに戻すことにより再度使用することができます。
- 自車速が約30 km/h以下になったとき（急な登り坂など）
- 自車速が約140 km/h以上になったとき（急な下り坂など）
- コースト操作中に自車速が約40 km/h未満になったとき
- ABS、VDCまたはTCSが作動したとき
- 駐車ブレーキをかけたとき
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- EyeSightに異常があるとき（65ページの「EyeSightの故障および一時停止」参照）
- ハンドルを大きく回したとき
- 道路の勾配が急なとき

滑りやすい路面では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、定速クルーズコントロールを使用しないでください。

アドバイス

- EyeSight が故障した場合は EyeSight 警告灯、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度エンジンを止めてから再びエンジンを始動してください。この操作をしても表示が点灯し続けるときは、定速クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。
- 定速クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの状態が解消されてから、再びセット操作を行ってください。状態が解消されてもセットできないときは、EyeSight の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

⑦ メモリーされている車速に再びセットします。（リジューム）
前回のセット車速がメモリー※されていますので、その車速に再びセットしたいときは、RES/SETスイッチをRES/＋側に押します。（メーター内のマルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態の表示になります。）
前回のセット車速がメモリーされている場合、現在の車速が約30 km/h以上でセットが可能です。

S00478

※次の場合はメモリーされている車速が消えます。
- クルーズメインOFFしたとき
- VDC、TCSが作動したとき
- 全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えたとき

アドバイス

- 約40 km/h～100 km/hの範囲でセットされた車速で定速走行します。
- メモリー車速（前回のセット車速）が無い場合RES/＋スイッチではセットできません。
- RES/ ＋スイッチで設定した場合は、メモリーされている車速にセットされます。

ブザー音一覧

ブザー音	状態	参照先
ピーー…	プリクラッシュブレーキ 2次ブレーキおよび警報が作動したとき	☆39ページ参照
ピッ、ピッ、 ピッ、ピー	プリクラッシュブレーキ 2次ブレーキおよび警報で停止後解除するとき	☆39ページ参照
	全車速追従機能付クルーズコントロール 先行車の停止に伴い自車も停止し、停止後自動ブレーキが解除するとき	☆30ページ参照
ピーッ	全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールが自動解除されたとき	☆32ページ、 62ページ参照
ピピピ…	プリクラッシュブレーキ 1次ブレーキおよび警報が作動したとき	☆39ページ参照
	プリクラッシュブレーキ 車間距離警報が作動したとき	
	AT誤発進抑制制御が作動したとき	☆43ページ参照
	全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ踏み増し要求警報が作動したとき	☆34ページ参照
ピピピピピピッ	車線逸脱警報が作動したとき	☆47ページ参照
	ふらつき警報が作動したとき	☆50ページ参照
ピッ	全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に ・先行車を認識したとき※ ・先行車がいなくなったとき※	☆22ページ参照
	全車速追従機能付クルーズコントロール⟷定速クルーズコントロールを切り替えたとき	☆57ページ参照
	EyeSightが故障したとき	☆65ページ参照
	EyeSightが一時停止したとき	☆66ページ参照
ポピッ	先行車発進お知らせが作動したとき※	☆53ページ参照

※先行車を認識したとき／先行車がいなくなったときと先行車発進お知らせのブザー音は、カスタマイズによりOFFに設定することができます。
☆69ページ参照

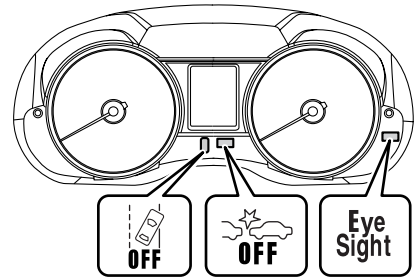
EyeSightの故障および一時停止

EyeSightに異常がある場合、メーター内表示灯とマルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイの表示によってお知らせします。表示内容を確認し、適切な処置を行ってください。

■故障（ステレオカメラの位置・角度ずれ含む）

- ブザー音が“ピッ”と鳴り、Eye Sightが点滅するか、Eye Sight、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が同時に点灯したとき

  原因：　EyeSightの故障またはステレオカメラの位置・角度ずれが考えられます。

  処置：　点検、調整などが必要ですので、スバル販売店にご相談ください。

S00471

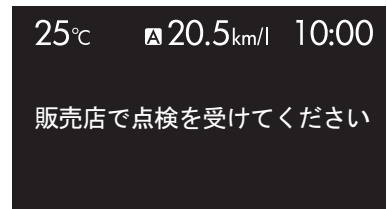
<マルチファンクションディスプレイ>

25℃　A 20.5km/l　10:00

Eye Sight

EyeSightの
点検が必要です

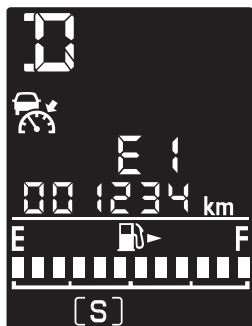
25℃　A 20.5km/l　10:00

販売店で点検を受けてください

S00492

■一時停止

- ブザー音が“ピッ”と鳴り、プリクラッシュブレーキOFF表示灯、車線逸脱警報OFF表示灯、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに“E1”が点灯したとき（“E1”はクルーズメインOFF時は表示されません）

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>　**<マルチファンクションディスプレイ>**

S00472

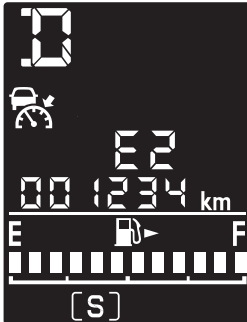
S00493

原因：　ステレオカメラが前方を認識しにくい状況
- フロントガラスの汚れ、曇り
- 悪天候時
- 前方からの強い光
- 極端な高温または低温になった後

処置：　フロントガラスに曇りや汚れがある場合は、きれいにしてください。
上記の原因となる状況が解消されしばらく走行すると一時停止から自動的に復帰します。このとき、復帰に時間がかかる場合があります。
状況が解消して時間がたっても復帰しない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

- ブザー音が“ピッ”と鳴り、プリクラッシュブレーキOFF表示灯、車線逸脱警報OFF表示灯、およびメーター内のマルチインフォメーションディスプレイ内の“E2”が点灯したとき（“E2”はクルーズメインOFF時は表示されません）

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>　**<マルチファンクションディスプレイ>**

S00473

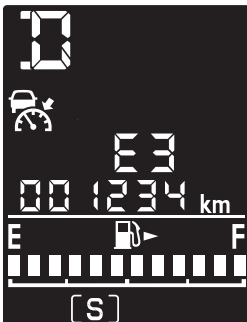
S00494

原因：　低温時／高温時

処置：　EyeSightが使用可能な温度になれば、一時停止から自動的に復帰します。
室内が常温でも復帰しない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

- ブザー音が“ピッ”と鳴り、プリクラッシュブレーキOFF表示灯、車線逸脱警報OFF表示灯、およびメーター内のマルチインフォメーションディスプレイ内の“E3”が点灯したとき（“E3”はクルーズメインOFF時は表示されません）

マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイには、それぞれ以下のように表示されます。

<マルチインフォメーションディスプレイ>　**<マルチファンクションディスプレイ>**

S00474

S00495

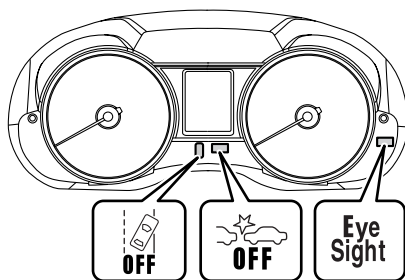
原因：
- EyeSight起動中
- 車両が極端に傾いていると判断したとき
- エンジンをかけてから、その後切るまでの間に、プリクラッシュブレーキ2次ブレーキが3回作動したとき
- エンジンが停止したとき（アイドリングストップによる停止を除く）

処置：原因が解消されれば、一時停止から自動的に復帰します。このとき、復帰に時間がかかる場合があります。
原因が解消して時間がたっても復帰しない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

注意

走行中に EyeSight 警告灯の点灯とエンジン警告灯の点灯が同時に発生したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。エンジンなどに異常がある場合は、EyeSightは使用できません。

アドバイス

- 前述の一時停止表示が現れたときは、定速クルーズコントロールを除く全てのEyeSightの機能が使用できません。
- EyeSight 警告灯が点灯または点滅したときは、安全な場所に停車して、一度エンジンを止めてから、再びエンジンを始動してください。
- 上記の操作をしても、表示が点灯または点滅し続けるときは、EyeSight の異常が考えられますので、EyeSight の全ての機能が使用できません。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

S00471

カスタマイズ

エンジンがかかっていてクルーズメインがOFFでセレクトレバーがPのとき、警報音量、先行車捕捉音および先行車発進お知らせ機能のカスタマイズを設定できます。
（車間設定）スイッチを2秒以上押すと、カスタマイズモードになります。
（車間設定）スイッチを1回押すことにより「音量（メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに表示されたオドメーター表示部の左に表示されている“１”)」と「先行車捕捉音（メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに表示されたオドメーター表示部の左に表示されている“２”)」と「先行車発進お知らせ機能（メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに表示されたオドメーター表示部の左に表示されている“3”)」のカスタマイズメニューの切り替えができます。

①警報音量のカスタマイズ

「音量」を選択し、RES＋/SET－スイッチを押すと、音量を大/中/小に設定変更することができます。
警報音量の設定は次のように表示されます。
スイッチを離すと設定が完了し、同時にブザーが“ピピピッ”と鳴ります。

音量設定	ディスプレイ
大	1 u.3
中	1 u.2
小	1 u. 1

S00386

②先行車捕捉音のカスタマイズ

「先行車捕捉音」を選択し、RES＋/SET－スイッチを押すと、機能あり/機能なしの設定を変更することができます。
先行車捕捉音の設定は次のように表示されます。ONにすると同時にブザーが“ピッ”と鳴り、OFFにしたときはブザーが鳴りません。

音量設定	ディスプレイ
機能あり	2 on
機能なし	2 oF

S00387

次ページへ ⇒

⇒前ページより

③先行車発進お知らせ機能のカスタマイズ

「先行車発進お知らせ機能」を選択し、RES＋/SET－スイッチを押すと、機能あり/機能なしの設定を変更することができます。

先行車発進お知らせ機能の設定は次のように表示されます。ON にすると同時にブザーが“ポピッ”と鳴り、OFFにしたときはブザーが鳴りません。

音量設定	ディスプレイ
機能あり	3 on
機能なし	3 oF

S00496

アドバイス

- エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。
- 工場出荷時の警報音量は「大」、先行車捕捉音は「機能あり」、先行車発進お知らせ機能は「機能あり」に設定されています。

マルチファンクションディスプレイの割り込み画面一覧

マルチファンクションディスプレイには、ブザー吹鳴と同時に1画面につき3秒間の割り込み画面を表示します。1つの割り込みにつき2画面のときは、2秒ずつ表示されます。
割り込み画面には異常を検知したときの警告画面もあります。警告画面が表示された場合は表示灯、警告灯の該当ページを参照して必要な処置をおこなってください。
警告画面終了後、通常表示に戻ります。

■画面表示一覧

項目	表示画面1	表示画面2	処置（参照先）
ブレーキ踏み増し要求警報/プリクラッシュブレーキ/AT誤発進抑制制御	25℃ A 20.5km/l 10:00 前方注意 K072		☆34ページ、39ページ、43ページ
車線逸脱警報	25℃ A 20.5km/l 10:00 はみだし注意 K073		☆47ページ
ふらつき警報	25℃ A 20.5km/l 10:00 ふらつき注意 K074		☆50ページ
先行車発進お知らせ	25℃ A 20.5km/l 10:00 先行車が発進しました K075		☆53ページ
定速クルーズコントロール	25℃ A 20.5km/l 10:00 定速クルーズ K076		☆55ページ、57ページ、58ページ
EyeSightの故障	25℃ A 20.5km/l 10:00 Eye Sight EyeSight の点検が必要です K077	25℃ A 20.5km/l 10:00 販売店で点検を受けてください K078	☆65ページ

項目	表示画面1	表示画面2	処置（参照先）
EyeSightの一時停止	25℃ A 20.5km/l 10:00 Eye Sight カメラの視界が 悪いため 一時停止しました K079		☆66ページ
	25℃ A 20.5km/l 10:00 Eye Sight カメラの温度が 使用範囲外のため 一時停止しました K080		☆67ページ
	25℃ A 20.5km/l 10:00 Eye Sight 作動条件を 満足していないため 一時停止しました K081		☆67ページ
	25℃ A 20.5km/l 10:00 OFF K082		☆32ページ
	25℃ A 20.5km/l 10:00 OFF 先行車無し K083		☆32ページ
	25℃ A 20.5km/l 10:00 OFF 路面急勾配 K084		☆32ページ

故障と思う前に

	クルーズコントロールがセットできない
	（クルーズ）スイッチを押し忘れていませんか？ 押し忘れているときは（追従クルーズ表示）が消灯しています。
	EyeSightが一時停止状態になっていませんか？ EyeSightが一時停止状態の時は、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに“E1”“E2”“E3”表示されます。 一時停止状態の要因を解消した後、再度設定操作を行ってください。
	[READY]表示が出ていますか？ （全車速追従機能付クルーズコントロール時）[READY]表示が出ていないとセットできません。[READY]表示が出ているときセット操作してください。

	[READY]表示が出ない
	定速クルーズコントロールではありませんか？ 定速クルーズコントロールでは、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに（車間設定）が表示されません。
	セットできる条件ですか？ 次のいずれかのときは、[READY]表示は出ません。 • ブレーキペダルを踏んでいるとき • 自車速が約0 km/h～100 km/h以外のとき • メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ内の表示がD以外のとき（セレクトレバーやパドルシフトを操作したとき） • 運転席のベルトが外れているとき • 駐車ブレーキがかかっているとき • 運転席・助手席・後席のいずれかのドアが開いているとき • 急な坂にいるとき • VDCがOFFのとき

	先行車を認識しない、認識するのが遅い、すぐに認識しなくなるなど
	停止車両、極端に遅い車両ではありませんか？ 停止車両や極端に遅い車両は認識が遅れる場合があります。
	フロントガラスが汚れたり、曇ったりしていませんか？ フロントガラスに汚れや曇りがある場合、先行車を認識しない場合があります。 フロントガラスの汚れや曇りを取り除いてから再びご使用ください。
	先行車が遠い距離にいませんか？ ステレオカメラの最大の認識距離は約90 mです。それ以上の距離が開いていると認識しません。
	カーブ路ではありませんか？ 認識範囲は左右に限界があります。
	登り降りが連続した道路（陸橋など）、またはバンク路面（路面が傾いている道路）ではありませんか？ 認識範囲は上下に限界があります。
	先行車が入れ替わっていませんか？ 入れ替わった場合は、認識が遅れる場合があります。
	先行車が水や雪などを巻き上げて走行していませんか？ 水や雪を巻き上げている場合、先行車を認識できない場合があります。

	先行車がいないのに制御を行う
	隣車線に車両はありませんか？ 道路状況によっては隣車線の車両を先行車として認識する場合があります。
	カーブ付近を走行中ではありませんか？ カーブ走行中は、ガードレール、路側の構造物に対してブレーキ制御を行う場合があります。

	EyeSightが一時停止から復帰しない
	VDCがOFFになっていませんか？ VDCがOFFのときはEyeSightが一時停止状態になります。
	雨天の中を、古いワイパーのままや、フロントガラスに油膜が付着した状態で走行していませんか？ ワイパーを新品に替え、フロントガラスの油膜を取り除いてください。
	太陽が真正面（西日など）にあったり、夜間対向車の強いヘッドライトをあびていませんか？ この場合、EyeSightが一時停止状態になります。
	高温または低温環境に車両を放置していませんでしたか？ この場合、EyeSightが一時停止状態になる場合があります。 エアコンなどを使用し、室内を常温にしてください。

	ブレーキ踏み増し警報のタイミングが早いとき、または遅いときがある
	ブレーキ踏み増し警報は、先行車との相対距離や相対速度などから、システムが踏み増し要と判断したときに鳴りますので、先行車のブレーキのかけ方によってはタイミングが変わる場合があります。

	先行車離脱の後の加速が遅いとき、または速いときがある
	先行車の離脱タイミングによっては、離脱判断が遅くなる場合があり、加速開始が遅く感じる、ブレーキ制御が長く感じる可能性があります。
	[S]モードスイッチの選択により、加速が異なります。

	クルーズコントロールが勝手に解除された
	次のいずれかの操作をしている。 • ブレーキを踏んでいませんか？ • CANCEL（キャンセル）スイッチを押していませんか？ • セレクトレバーをMにしていませんか？ • VDC OFFスイッチを押していませんか？
	EyeSightが一時停止状態になっていませんか？

	先行車がいないのに、先行車発進お知らせが作動する
	車両前方の周辺物や交通環境、天候によって先行車以外の物に対して先行車発進お知らせが作動する場合があります。

	自動ブレーキが作動すると音がする
	自動ブレーキの作動音で異常ではありません。

	渋滞走行時、ブレーキ制御を行う頻度が高い
	人の運転と異なり先行車の動きのみにあわせての制御ですので、頻繁な加減速となる場合があります。なお、このような状況で車間距離が保ちにくい場合は使用を控えてください。

	下り坂でクルーズコントロールを使用中に、弱いショックを感じる
	シフトダウン（低速ギヤに変速する）制御を行っているので弱いショックを感じることがあります。

	RES/SETスイッチをRES/＋側に押したらセット車速が減少した またはSET/－スイッチを押し下げたらセット車速が増加した
	スイッチを長押ししていませんか？ スイッチを長押しすると、押している間加速（または減速）し、スイッチを離したときの車速がセット車速になります。 まれにRES/SETスイッチをRES/＋側に長押ししても道路状況によっては減速することがあり、減速後の車速がセット車速になることがあります。

さくいん

ふ

ま

め

り

れ

A

C

E

R

S

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項
型式・車台番号・登録番号・登録年月日
②走行距離
③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール　0120－052215

受付時間　9:00～17:00(平日)、土日祝は9:00～12:00、13:00～17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
(1) ご意見／ご感想／ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）
(2) お問合せ／ご相談
※平日の12:00～13:00および土日祝は（1）のインフォメーションサービスのみとなります。

富士重工業株式会社
スバルカスタマーセンターお客様相談部
〒160-8316　新宿区西新宿1-7-2（スバルビル）

編集・発行　**富士重工業株式会社**

スバルカスタマーセンター

IMPREZA GJ2-002001～004299,GJ3-002001～004599,
GJ6-002001～004099,GJ7-002001～009099,
GP2-002001～011299,GP3-002001～007299,GP6-002001～007799,GP7-002001～020299